

株式会社 Lankuuno I Le 越谷ラフ 支援方針

【1】利用児および家族の生活に対する意向

1-1. 子ども・保護者の意向・学習面や社会性の向上など、保護者が求める支援内容を丁寧にヒアリングし、子ども自身の興味・得意・苦手なことを把握して、放課後の時間を有意義に過ごせるよう配慮します。・学校での生活や学習の様子を踏まえ、宿題支援やコミュニケーション支援など、家庭や学校から得た情報を総合的に考慮します。

1-2. アセスメントの実施・5領域(健康・生活／運動・感覚／認知・行動／言語・コミュニケーション／人間関係・社会性)に加え、「学習習慣」や「自己管理スキル」など就学児特有の課題も含め、多面的に把握します。・担任の先生や保護者からの情報、本人の自己評価などを参考に、日々の放課後支援計画を策定します。

【2】総合的な支援の方針

・支援期間は1年を目安とし、子ども・保護者・学校関係者との連携を重視します。・方針の柱:(1) 医療知識と教育知識の融合 → 児童精神科医・臨床心理士と連携し、学習面や行動面への医学的根拠を活かしたサポートを行います。(2) 学校生活・家庭生活の継続性 → 学校での学びや家庭でのしつけが放課後にもしっかりとつながるよう、連携・情報共有を徹底します。(3) 中長期的な移行を見据えたサポート → 進学や地域の社会資源活用を視野に入れ、小中学生段階での基盤作りを支援します。(4) PDCA サイクルによるモニタリング → 6か月ごとに個別支援計画を見直し、必要に応じて改善策を講じます。

【3】長期目標(1年程度)

1. 基本的な生活・学習習慣の確立 → 学校・家庭・デイの連携によって宿題や身の回りの整理などが安定し、家庭学習の基盤が整う。
2. コミュニケーション能力の向上 → 同年代の仲間とのやり取りを楽しみながら、必要に応じて助けや協力を求められるようになる。
3. 社会性・自己管理スキルの強化 → 集団活動や社会性を養うプログラムを通じ、自己コントロール力や役割意識を育む。
4. 将来の進路・移行を見据えた準備 → 進学や地域活動への参加など、ライフステージの変化に対応できる基礎を作る。

【4】短期目標(6か月程度)

1. 学習および宿題支援の定着 → 日々の宿題を放課後デイ内でスムーズに取り組み、学習習慣を形成する。
2. コミュニケーション機会の増加 → 簡単なグループワークやレクリエーションを通じて、挨拶や相づちなど基本的なコミュニケーションを練習。
3. 集団活動におけるルール理解 → 小集団での遊びや係活動を通じて、順番・役割を守る意識を醸成。
4. 自己肯定感・モチベーションアップ → 得意な活動(工作・音楽・ゲームなど)を通じて成就感を味わい、前向きに放課後の時間を過ごす土台を築く。

【5-1】本人支援(5領域との関連性)

■健康・生活・目標: 小学生として自律的に生活リズムを管理できるよう、基本的な身の回りの準備や健康管理をサポート。・支援内容:

- (健康/生活) 学校から帰ったら手洗い・うがいを徹底、視覚的なスケジュール表で翌日の持ち物チェックなどを支援
- (運動/感覚) 放課後の疲れや感覚過敏に配慮し、クールダウンできる環境を整備
- (認知/行動) 「次に何をするか」を提示し、宿題・自由時間などのメリハリをつける
- (言語/コミュニケーション) 日記や連絡帳の書き方を簡単にフォローし、言葉で状況を整理できるよう促す
- (人間関係/社会性) 健康状態をスタッフと共有しつつ、無理なく活動に参加できるよう配慮

■運動・感覚・目標: 体を動かす機会を活かし、感覚統合や協調動作を伸ばしつつ、ストレス発散を図る。・支援内容:

- (健康/生活) 運動後は汗を拭く・着替えるなど生活動作も含めてサポート
- (運動/感覚) ボール投げやストレッチなど軽い運動で身体機能の向上を目指す
- (認知/行動) 運動後に振り返りタイムを設定し、達成感や課題を本人に認識させる
- (言語/コミュニケーション) 活動前の説明を絵やピクトグラムで行い、見通しを持たせる
- (人間関係/社会性) チーム対抗のゲームなどを通じて、協力や励まし合いを経験

■認知・行動 ・目標: 学習や放課後の活動に必要な集中力・問題解決力を少しずつ伸ばし、衝動的な行動を減らす。 ・支援内容:

- ・ (健康/生活) 一日のタイムテーブルを提示し、先読みできるように
- ・ (運動/感覚) 感覚過敏が強い場合はイヤーマフやクッションスペースを用意
- ・ (認知/行動) スモールステップで課題を提示し、自信を高める
- ・ (言語/コミュニケーション) 質問の仕方や伝え方を練習し、困った時に周囲にヘルプを出せるよう促す
- ・ (人間関係/社会性) 係活動やルールのあるボードゲームで計画性・順番待ちを学ぶ

■言語・コミュニケーション ・目標: 友達や大人に対して、適切な言葉や態度で意思疎通ができるようになる。 ・支援内容:

- ・ (健康/生活) 挨拶・返事など、場面に応じた声かけの習慣化
- ・ (運動/感覚) 運動中にスタッフや友達に声をかける練習(「パスちょうだい」「ありがとう」など)
- ・ (認知/行動) 絵カードや定型文を活用し、わからない時に質問する習慣を促す
- ・ (言語/コミュニケーション) グループワークで発言や意見交換を行い、活発なコミュニケーションを経験
- ・ (人間関係/社会性) 「ありがとう」「ごめんなさい」の使い方を覚え、トラブル時にも落ち着いて対処

■人間関係・社会性 ・目標: 学校・家庭以外の場所での人間関係を広げ、集団生活に必要な協調性や互助を学ぶ。 ・支援内容:

- ・ (健康/生活) デイでの役割分担(おやつの準備など)を通じて責任感を育む
- ・ (運動/感覚) チームプレーの運動を取り入れ、仲間意識・協同心を醸成
- ・ (認知/行動) 仲間の失敗を責めない、励ますといった肯定的な行動をスタッフがモデルとして示す
- ・ (言語/コミュニケーション) デイのルールや約束をみんなで共有し、わからない時は質問する姿勢を育てる
- ・ (人間関係/社会性) クラブ活動的な取り組み(工作クラブ、音楽クラブなど)を設けて共通の趣味から交流を深める

【5-2】家族支援

1. 学校や家庭での連携 ・連絡帳や定期面談を活用し、家庭や学校での困りごとや課題を把握。必要に応じて担任の先生や保護者と連携。 ・「宿題の進め方」「自宅学習のルール作り」など、家庭環境で行いやすい具体的なアドバイスを提供。
2. 相談援助・情報提供 ・子どもの学習障害や発達特性への理解を深めるため、保護者向けの勉強会や資料提供を実施。 ・将来の進路や学習面の支援に関する相談に乗り、必要な場合は関係機関の紹介を行う。
3. 保護者同士の交流 ・保護者会や SNS などを活用し、互いの不安や悩みを共有できる場を提供。 ・きょうだい児への配慮や対応方法について助言し、家族全体の安定を目指す。

【5-3】移行支援

1. 進学・進路相談 ・学習面や生活習慣における目標を設定。保護者・学校と連絡を取り合い、スムーズな進学準備を進める。 ・地域の進学説明会や学校見学の情報を提供し、将来の選択肢を広げる。
2. 地域資源との連携 ・学童クラブや地域の放課後活動、習い事などの情報提供を行い、子どもが多様な経験を積めるようサポート。 ・必要に応じて相談支援事業所や公共機関と連携し、家庭以外の居場所づくりを進める。

【5-4】地域支援・地域連携

・学校との情報共有、地域の児童館や学童保育との連絡調整など、子どもの放課後活動が途切れないように支援。 ・近隣の医療機関や教育相談所と連携し、行動面・学習面で課題がある子どもを早期にサポートする仕組みを構築。

【6】支援目標・支援内容

・到達目標(6か月～1年後)

- ・子どもが基本的な学習・生活習慣を整え、放課後の時間を有意義に活用できる。
- ・保護者が子どもの学習や行動面の課題を把握し、前向きに家庭でも支援できる。

【7】支援内容(事業所が行う工夫・配慮)

1. 本人支援(5領域連携)

- 学習サポート: 宿題や学習の見通しを伝え、必要に応じて個別指導。
 - グループ活動: チームビルディングゲームや工作・音楽など、多様な経験を提供。
 - コミュニケーション練習: ロールプレイやカードを使ったやり取りの練習。
2. 家族支援
- 保護者面談や電話相談を通じ、学校や家庭での困りごとを共有しアドバイス。
3. 移行支援
- 進学や地域活動への参加を想定し、必要書類の確認や関係機関との連携。
 - 進路選択時期には専門家によるアドバイスや情報提供を強化。
4. 地域支援・地域連携
- 近隣小児科や教育相談所、地域活動団体との情報共有。
 - 公的制度や各種助成金の利用方法を案内。

【達成時期】

・短期目標のモニタリング: 3 か月～6 か月 ・長期目標の達成見込み: 1 年

【8】担当者・提供機関

・担当者

- 児童発達支援管理責任者(児童精神科医または小児科医との連携あり)
- 看護師
- 保育士や児童指導員等

・連携先機関

- METKIDS CLINIC 春日部、新百合ヶ丘
- 地域の特別支援学校
- 相談支援事業所

【9】留意事項欄

・加算情報

- 児童指導員等加配加算など
- 複数スタッフ体制による個別対応が必要な場合、関係機関連携加算も検討

【10】優先順位

- 優先度 1: 学習・生活習慣の確立(健康・生活／認知・行動)
- 優先度 2: コミュニケーションの向上(言語・コミュニケーション)
- 優先度 3: 社会性・自立支援(人間関係・社会性／運動・感覚)
- 優先度 4: 進学や将来を見据えた支援(移行支援)

■子どもの意思尊重と最善の利益の優先 ・本人の希望や目標をヒアリングし、自主性を引き出す計画づくりを行う。

■アセスメントに基づいた支援 ・5領域＋学習や自己管理面を踏まえた総合的なアセスメントを行い、個別性を重視。

■PDCA サイクルによる継続的な見直し ・半年に一度を目安に個別支援計画を見直し、必要に応じて支援内容を変更・改善。

【弊社のオリジナリティ】

1. 専門家との連携 ・児童精神科医と小児科医が監修するプログラムにより、エビデンスベースの学習支援・行動支援を提供。
2. 学校との密な連携 ・学校との連絡をスムーズに行うための連携担当者を配置。
3. 地域貢献 ・近隣学校への無償巡回アドバイスを継続し、学校側との協力体制を強固にする。

以上の方針に基づき、就学児に特化した放課後等デイサービスを実施します。学習・コミュニケーション・社会性のバランスを重視し、子ども一人ひとりの将来につながる支援を提供していきます。